

◆ 主な研究課題・事業 ◆

課題1 水稲乾田直播導入圃場における自給飼料生産体系の確立



トウモロコシの栽培状況

飼料価格の高騰により、自給飼料生産の必要性が高まっているなか、県内基幹草種である牧草・トウモロコシはその面積の半数近くが水田転作畑で栽培されており、水田をフル活用した飼料の安定生産が求められています。そこで、水稲栽培時に、代かきが不要で湛水期間が短い乾田直播を施し排水性を高めた水田において牧草・トウモロコシ等を栽培する田畑輪換栽培体系を確立します。

課題2 温暖化に対応した果樹、野菜、牧草の適応性調査

地球温暖化により、牧草の夏枯れ被害の増加と子実用トウモロコシの虫害による被害が懸念されています。そこで、牧草では耐暑性があり夏枯れに強いとされる多年性牧草類について、県内に適応する当該牧草を検討し普及を図ります。

また、子実用トウモロコシではドローンを活用した害虫防除体系を実証します。



ドローンによるトウモロコシ防除作業

課題3 飼料作物優良品種選定調査

公的研究機関で育成された品種や市販品種である牧草（オーチャードグラス、イタリアンライグラス、チモシー）及び飼料用トウモロコシの生育状況や収量、病害虫の発生等を既存の県優良品種と比較調査を行い、本県の栽培環境下に適する品種の選定を行います。



プロットハーベスタによる収量調査

課題4 気候変動に対応した追播適性に優れたライグラス類の育成とそれらを利用した省力的な「草地メンテナンス技術」の確立

近年の気候変動に伴い、夏枯れや湿害による草地の早期荒廃が多く発生しているため、県内における追播に適した多年生ライグラス類の適応性を明らかにするとともに、多年生ライグラス類の追播実証を行い、省力的草地メンテナンス技術を確立します。



不耕起播種機を用いた経年草地における多年生ライグラス類(夏ごしペレ)の追播実証

課題5 子実用トウモロコシ低コスト生産に係る展示圃の設置

子実用トウモロコシ栽培において大きな課題である生産コストの低減に向け、特に高騰している肥料費を削減する施肥管理技術の検証を行うとともに、当該技術について展示圃を設置して広く関係者に周知します。



肥料費削減に向けた堆肥利用の促進